

巻頭言

関東支部活動紹介

日本油化学会関東支部長 野々村 美 宗



日本油化学会関東支部の守備範囲はとにかく広く、北は北海道にまで及びます。かくいう筆者も東北の地に住みながら、関東支部の活動に参加していますし、油化学会の会員のうち、約60%がこの地域に所属しています。関東支部の魅力は、そんな多彩な地域から集まった産官学に所属する研究者が、学会活動に携わっているところのように感じます。

この支部では、油化学の視点から学術を振興・普及するために、一般市民・学生・企業研究者を対象とした啓蒙活動を積極的に行っていますが、特に重点を置いているのが、年に3回実施される油化学セミナーです。今年度の第1回油化学セミナーは、6月23日(金)に昭和大学上條講堂で「成功する新規事業のつくりかた」というテーマで行われました。経営環境が激変する昨今、新規事業の重要性はますます高まっていることを受け、アイデア開発の手法と油脂産業に関連した成功事例が紹介されました。

- (1)「ユニークな新規事業アイデアの作り方(ひらめきの作法)」

(株) アイディアポイント 東信和氏

- (2)「「ラクトフェリン」の新機能 内臓脂肪低減効果の発見と機能性表示食品としての実用化」

ライオン(株) 村越倫明氏

- (3)「生体適合性リン脂質ポリマーの開発」

日油(株) 首藤健志郎氏

- (4)「微細藻類ユーグレナの研究開発と事業展開の可能性について」

(株) ユーグレナ 鈴木健吾氏

画期的な材料や技術が開発されたにもかかわらず、ビジネスとしては成功に結び付けられない場合も多いという商品開発の現場の声に答えるために、事業企画委員のみなさんから提案された新企画でしたが、まさに時代の要請に合った企画ということで、80名の方にお集まり

いただきました。これまでの油化学セミナーでは油脂化学・界面化学における技術的なホットトピックが取り上げられることが多かったのですが、今回のように経営・マネジメントの観点から会員の皆様の役に立つシンポジウムを提案していきたいと、改めて感じました。

第2回油化学セミナーは、11月25日(土)に岩手大学総合教育研究棟ぼらんホールで市民公開講座として行われる予定です。テーマは「安全でおいしい食品を創る」ということで、まさに自然のめぐみに溢れた岩手県にぴったりのトピックスが並んでいます。油脂・食品化学とヘルスケアの最先端の取り組みを学ぶとともに、秋の東北を味わうことができますので、ぜひご参加ください。

- (1)「カリウムの健康効果に着目した食品開発による脳卒中リスクの改善」

生活習慣病予防研究センター 岡山明氏

- (2)「褐藻脂質の栄養機能性と応用」

北海道大学大学院 宮下和夫氏

- (3)「地域食材の健康機能性評価や付加価値向上への研究アプローチ」

岩手大学農学部 伊藤芳明氏

- (4)「脂質劣化を抑制した高品質乾燥食品の開発」

岩手大学三陸水産研究センター 森川卓哉氏

また、関東支部では、平成25年度から日本油化学会年会で若手研究者によって発表された研究の中から、秀れたものを関東支部幹事の投票によって選出しています。そして選出された研究の発表者に若手研究者奨励賞を授与するだけでなく、併せて受賞講演をお願いしています。今年度も平成30年1月12日(金)に油脂工業会館大会議室において記念講演会が行われる予定ですので、油化学の未来を切り開いていく若手研究者の研究を、たっぷりとお聞きください。

(山形大学大学院 教授)